

今月のピックアップ

寒い季節になり、石油温風暖房機や石油ストーブ等の燃焼機器を使用中に、一酸化炭素中毒による事故が多発しています。物が燃えるときに、新鮮な空気が不足すると一酸化炭素が発生します。無色無臭であるため、頭痛や吐き気で異変に気付いた時には手足がしびれて動けず、死に至る場合もあり、大変危険です。窓を開けるなどして「必ず換気」をし、以下の点を参考に、十分注意してください。

- 一酸化炭素とは
 - ・不完全燃焼により発生し、無色無臭の気体であるため気づきにくい、毒性は強力。
 - ・軽度の中毒症状は頭痛、吐き気など風邪の症状と似ているが、重度になると、死に至ることもある。
- 一酸化炭素中毒事故の例
 - ・換気扇を使用せずにガス湯沸器を使用した。
 - ・閉め切った室内で石油ファンヒーターを使用した。
 - ・ガスストーブの空気取入口にほこりが詰まっていた。
- 事故防止のために
 - ・ガスや石油を使うときは、窓を開けるなどして「必ず換気」をする。
 - ※ただし、煙突式の燃焼機器を使用中に近くで換気扇を回すと、煙突から排気が出ていかず、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険。窓を開ければ、窓から空気が入って煙突から排気される。
 - ・製品に異常を感じたら、使用を中止して、販売店又はメーカーに相談する。

◇ 平成21年12月の重大製品事故公表情報(消費者庁) [単位:件 ()内は長野県内での発生件数]

ガス機器・石油機器に関する事故	ガス機器・石油機器以外の製品に関する製品起因が疑われる事故					その他の主な製品の内訳
	電気ポンプ	電気冷蔵庫	エアコン	その他		
49 (1)	23	3	2	2	16 (1)	・電気衣類乾燥機 ・テレビ(ブラウン管) ・電気こんろ ・換気扇 ・エアコン(室外機) ・食器洗い乾燥機(ビルトイン式)
						・ベビーカー ・除湿器 ・加湿器 ・蛍光灯照明器具 ・脚立 ほか

※ 詳細な情報は、消費者庁のホームページをご覧ください。
 (<http://www.caa.go.jp/safety/index.html>)

スプレー缶製品の思わぬ事故

塗料、殺虫剤、ヘアスプレーなど、スプレー缶製品は日常のさまざまなところで使われています。しかし、ファンヒーターの前に置いたために加熱されて破裂・爆発したり、廃棄のために穴を開けガス抜きをしているときに、その内容物に近く火が引火して爆発するといった事故も起きています。

スプレー缶の内容物には可燃物が入っているため、思わぬ所で引火を起こす危険性があります。使用・保管の際は①特にスプレー噴射直後には火気を近づけないこと②自動車内や直射日光の当たる場所、加熱源の近くには放置しないことなどにご注意ください。また、廃棄の際は中身を使い切り、その上で各自治体の廃棄方法をよく確認することなどにご注意ください。